

人工膝関節 研修希望医募集

人工膝関節センター長：金山 竜沢

| | |
|-------|--|
| 身分 | 研修生 |
| 応募資格 | 人工膝関節領域に興味がある方、熱意のある方（資格不問） |
| 勤務開始日 | 要相談 |
| 勤務時間 | 8：30～17：00（8時間、休憩1時間含）※3ヶ月から1年間通常勤務が可能な方。 |
| 給与 | 当院規程による |
| 福利厚生 | 住宅手当、引越代・交通費補助あり。学会年会費補助あり。（期間で条件が異なる） |
| 休暇 | 年次有給休暇・慶弔休暇・年末年始等（期間で条件が異なる） |
| 応募方法 | 医師採用ページのフォームから申込み・お問い合わせください。 https://recruit.skgh.jp/doctor/contact/ |
| 書類送付先 | 〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370番1 湘南鎌倉総合病院 臨床研修センター 医師人事係 宛 |



上記内容に関するお問い合わせは以下のメールアドレスへお願いいたします。

湘南鎌倉総合病院 臨床研修センター kenshu@shonankamakura.or.jp



プレカットトリアルTKAによる手術手技の習得および超早期可動域訓練によるTKA術後深屈曲の獲得。

TKAの手術手技、術後可動域に悩んでいる医師のための研修システムを開設しました。詳細は次ページを御覧ください。

TKA手術手技に疑問を持っている、悩んでいる先生方へ

プレカットトライアルを用いたTKAを学んでみませんか？

皆さんにはこのような経験がないでしょうか？

- ・ Measured resection techniqueで思うような伸展・屈曲ギャップ調整ができない。
- ・ Gap techniqueでギャップを調整しようとするとうまひラインが上がりすぎたり、大腿骨コンポーネントのサイズが計測したものより大きくなりすぎたり小さくなりすぎたりしてしまう。
- ・ PCLを温存すると屈曲ギャップが小さくなりすぎてポリエチレン設置が困難になってしまう。
- ・ PCLを切除すると屈曲ギャップが大きくなりすぎて、屈曲で緩くなりすぎてしまう。
- ・ 骨ギャップで伸展・屈曲ギャップを調整できたのに、コンポーネントを設置すると伸展ギャップがきつくなり完全伸展が得られなくなってしまう。

- ・ 手術は問題なく行えているのに、術後の屈曲角度の改善が乏しい。
- ・ 屈曲拘縮例で完全伸展がなかなか得られない。

これらは私自身がTKAをするうえで悩んできた課題ですし、私が知り合った多くの先生方が同じように悩んでいる問題でもあります。

これらを解決するために私が考えぬき、たどり着いたものがプレカットトライアルによるTKAと術後超早期下肢自動運動によるリハビリです。プレカットトライアルを用いた1mm単位の微調整を行うことにより、上記のような術中の問題の一つ一つが解決可能となり、手術当日からの積極的な下肢自動運動と翌日からの膝リハビリクッションによる屈曲訓練により早期から良好な屈曲可動域の獲得ができるだけでなく、術後のDVT発生抑制にも有効であることを多くの学会、研究会で発表してきました。

プレカットトライアルTKAおよび術後超早期リハビリを研修したい整形外科医を募集します。期間は3か月から1年程度でご希望により調整可能です。もちろん長く研修していただいたほうがより多くの経験を積むことができ、理解も深まるものと思われまます。

研修内容は

- ・ プレカットトライアルTKAの実際。
- ・ Measured resection techniqueとgap techniqueの意味、違い
- ・ コンポーネント設置位置と膝周囲軟部組織の位置関係の重要性
- ・ 伸展ギャップ拡大のための後内側関節包縦切法の実際
- ・ プレカットトライアルTKAによるデータの活用方法

などです。実際の手術や過去の学会や講演会でのスライド、論文などを通じて日々少しずつ学んでいただきたいと思います。